





センター的機能活用の御礼

今年度も本校のセンター的機能を御活用いただきありがとうございました。御助言させていただいたことが、少しでも日々の指導・支援の参考になれば幸いです。

次年度も本校地域支援室は、肢体不自由教育、知的障害教育・発達障害教育における地域の特別支援教育のセンターとして、幼稚園や認定こども園、小・中学校、高等学校に在籍する幼児、児童生徒、保護者、先生方をサポートしていきます。

引き続きよろしく願いいたします。

相談・支援	研修協力	設備貸出・情報提供	地域支援室の御案内
 <p>オンラインによる実施も相談に応じます。</p>			

コラム① 次年度へ向けた引継ぎ

年度末のこの時期は、次年度へ向けて今年度の学習で達成した内容を「学びの履歴」として残し、円滑な指導・支援の引継ぎができるようにしておくことが大切です。その際、文章記述で学習の様子や指導・支援の具体を残すことも重要ですが、各教科等の指導においては、「何を学び、何ができるようになったか」の視点で学習指導要領と照らし合わせて評価を行い、記録することが重要となります。

通常の学級と同じ教科等を学ぶ児童生徒の場合は、当該学校・学年の①学習指導要領の内容と照らし合わせて、達成した内容や障害の状態等により代替や軽重を付けた内容を記録します。知的障害である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科を学ぶ児童生徒の場合は、②特別支援学校学習指導要領解説各教科等編より実態把握に基づいて取り扱った各教科の内容が達成できたかを評価します。障害が重度の児童生徒の場合は、学習指導要領に記載されている内容では評価が難しいことがあります。その際は、福岡大学の徳永豊教授が作成された③学習到達度チェックリストを活用することも有効です。

評価を行う際は、○(7割程度)、△(3~6割程度)、■(困難)等のように達成状況を段階で分けると、次に指導する内容がより明確になります。また、複数の教員で実施することで、より客観的な評価に近付けることができます。



より重度の児童生徒に対する実態把握や評価を行う際は、福山特別支援学校が作成された「重度・重複障害児のアセスメントチェックリスト」が有効です。



書籍の紹介



新しい時代の特別支援教育における
支援技術活用とICTの利用

金森克浩 編著 福島勇 他 著

ジアース教育新社



障害が重度の児童生徒に対するGI
GAスクール端末の活用の具体例や
ヒントが分かりやすく記載されてい
ます。また、スイッチやコミュニケーション
エイド等の支援具の紹介もされてい
ます。アプリや支援具の商品名も記
載されているので、実際に授業で活
用してみたい内容となっています。

コラム② 新年度に向けた準備

3月に入り、今年度も残すところ1ヶ月を切りました。
そこで、ここでは少し気が早いかもしれませんが、
新年度に向けた準備について、支援や工夫を紹介します。



①実態把握

新年度に向けた実態把握では、旧担任との連携や校種間連携が大切になります。特に校種間連携は限られた時間の中で行うことが多いので、聴くポイントを項目で整理し、事前に伝えておくなどして、ポイントを押さえた連携をすると良いです。また、旧担任などからは、コラム①で取り上げた「次年度へ向けた引継ぎ」も連携を行う上で参考になります。

②環境整備

①で行う実態把握を基に環境整備を行うことが大切です。「効率的な動線」、「見通しをもちやすい配慮」、「ユニバーサルデザイン化モデルの視点」、「定物定位」、「個に応じた支援の準備」、「ルールの明確化」など、児童生徒が安心できる環境を整備していくことが大切です。

③分かりやすく示す工夫

年度始めは、始業式、入学式、学級開き、臨時時間割、家庭訪問、遠足など、日常とは違う動きが多くあり、見通しがもちづらい時期でもあります。「日程や行事の流れをスケジュールで示す」、「教室環境を動画に撮って示す」、「ルーチンになる動きは手順書や動画で事前に示す」などの分かりやすく示す工夫が大切です。なお、行事の流れを示す場合は、「いつ」、「何が」だけでなく、「どこで」、「誰と」、「これを持って」、「こうする」など、児童生徒がより自分の動き方をイメージしやすいように細かく具体的に示すことが良い場合もあります。

年度末、年度初めは次への期待もありますが、不安も大きくなりやすい時期です。できる限り不安を減らし、少しでも安心してスタートを切ることができる支援や工夫が大切です。次年度へ向けた引継ぎや新年度に向けた準備でも、センター的機能で巡回相談、電話相談、来校相談、オンライン相談、研修協力を受けておりますので、必要な場合は御活用を御検討ください。

広島県立広島特別支援学校 地域支援室

所在地 広島市安佐北区倉掛二丁目 47-1

電話 082-843-1811 FAX 082-843-1813 メール hiroshima-sh@hiroshima-c.ed.jp

担当 専任教育相談主任 特別支援教育コーディネーター

玉林 和紘（肢体不自由部門） 寺田 浩樹（知的障害部門）